



2016年3月期 第1四半期決算 決算短信補足資料

2015年8月5日
日本水産株式会社

◆食品事業は増収・増益。水産事業は増収・減益、ファイン事業はほぼ横ばい。

(単位:億円)	2016年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期	対前年同期比 増減額/率(%)		2016年3月期 年間見通し	年間見通しに対 する進捗率(%)
売上高	1,606	1,516	89	105.9%	6,360	25.3%
水産事業	661	647	14	102.2%	2,726	24.3%
食品事業	804	737	66	109.1%	2,995	26.8%
ファインケミカル事業	58	60	▲ 2	96.6%	280	20.8%
物流事業	35	35	▲ 0	99.5%	152	23.4%
その他	46	35	11	131.3%	207	22.6%
営業利益	51	50	0	100.2%	170	30.0%
水産事業	10	21	▲ 11	48.7%	60	17.7%
食品事業	31	20	11	157.6%	68	47.0%
ファインケミカル事業	9	10	▲ 0	91.2%	44	22.5%
物流事業	4	4	0	103.2%	17	25.6%
その他	1	1	0	106.8%	5	24.3%
全社経費	▲ 7	▲ 7	0	95.3%	▲ 24	29.6%
経常利益	68	60	8	114.1%	185	37.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益	39	24	14	159.6%	105	37.9%
EPS(1株当たり純利益)	14.42円	9.03円	-	-	38.01円	-

◆前年同期比で増収・増益

海外は北米が順調に推移する一方、南米は苦戦。国内は食品事業が堅調。

【水産事業】 増収・減益

国内：魚価は一部弱含みの動きがあったが、総じて堅調さを維持。

海外：北米ですりみの販売数量が増加したものの、南米の鮭鱒養殖事業で販売価格下落と在池魚の評価損もあり収支悪化。

【食品事業】 増収・増益

国内：すりみなどの原材料コスト高騰や、円安による加工品の調達コスト上昇があったものの、好調なねり製品・魚肉ソーセージと価格改定が収益に寄与。チルド事業も堅調。

海外：北米、欧州とも順調に推移。

【ファイン事業】 ほぼ横ばい

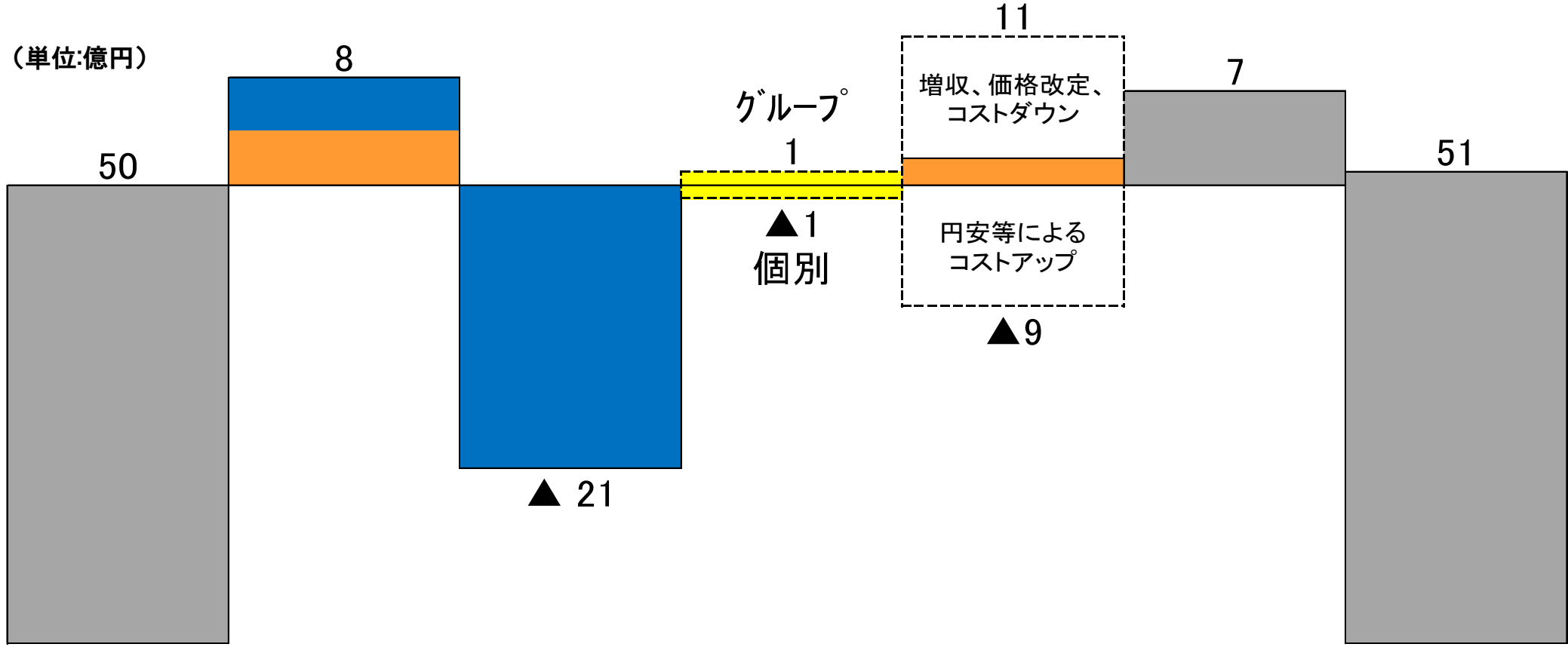
ニッスイ個別は、後発医薬品使用促進策による医薬原料の販売数量減少が続く。

グループは、臨床診断薬・産業検査薬などで販売が好転。

主な営業利益増減要因

■ 水産 ■ 食品 ■ ファイン

(単位:億円)



(主な増減要因)

2015年3月期 第1四半期 営業利益	海外		国内		連結調整 の増加	2016年3月期 第1四半期 営業利益
	<北米> 冷凍食品事業堅調、すけそうすりみの販売数量増加等	<南米> 鮭鱒の販売価格下落と在池魚評価損等	<ファイン> 後発品使用促進策による販売数量減少等	<個別/食品> 円安等によるコストアップと価格改定等による対応		

セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	496 (16)	150 (45)	45 (▲12)	25 (▲20)	121 (▲2)	838 (27)	▲176 (▲13)	661 (14)
	479	105	57	45	123	811	▲163	647
食品事業	796 (32)	214 (48)		15 (3)	52 (1)	1,079 (85)	▲275 (▲18)	804 (66)
	764	166		12	51	994	▲256	737
ファイン事業	62 (▲1)			0 (▲0)		63 (▲1)	▲5 (▲0)	58 (▲2)
	63			0		64	▲4	60
物流事業	61 (4)					61 (4)	▲26 (▲5)	35 (▲0)
	56					56	▲20	35
その他事業	58 (9)			0 (0)		59 (9)	▲12 (1)	46 (11)
	49			0		49	▲14	35
仮計	1,476 (62)	365 (93)	45 (▲12)	41 (▲17)	173 (▲0)	2,102 (126)		
	1,413	271	57	59	174	1,976		
連結調整	▲364 (▲20)	▲69 (▲17)	▲33 (2)	▲26 (0)	▲2 (▲1)		▲496 (▲36)	
	▲344	▲51	▲36	▲26	▲1		▲459	
連結計	1,112 (42)	295 (76)	11 (▲9)	15 (▲17)	170 (▲2)			1,606 (89)
	1,069	219	21	32	172			1,516

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※連結除外会社の影響額 ▲7億円(PESANTAR)

※為替換算による売上高への影響額(試算) 49億円

セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)



(単位:億円)

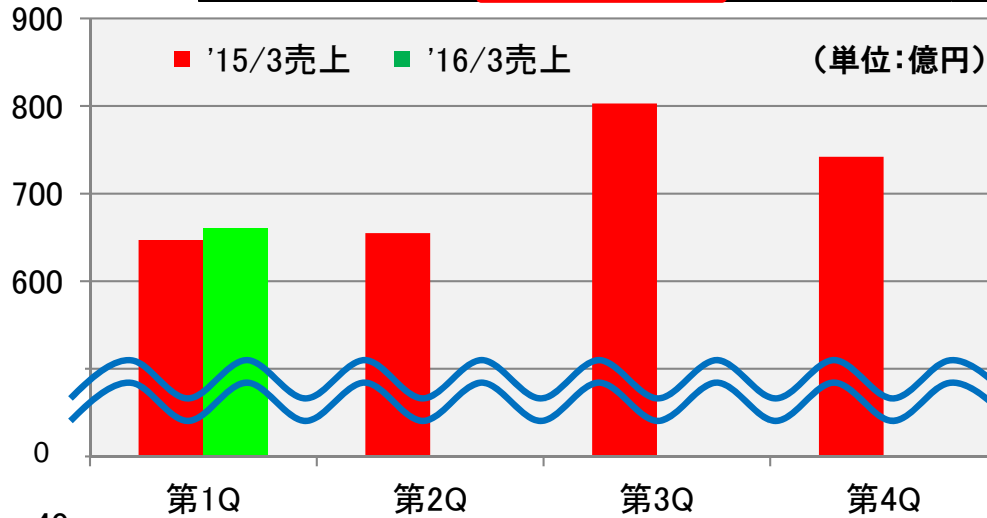
	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計
水産事業	6 (0)	10 (3)	▲9 (▲21)	▲0 (▲1)	2 (▲0)		9 (▲19)	0 (8)	10 (▲11)
	6	6	12	1	2		29	▲7	21
食品事業	16 (5)	9 (4)		0 (1)	5 (0)		32 (12)	▲0 (▲0)	31 (11)
	10	5		▲0	4		20	0	20
ファイン事業	9 (▲0)			0 (▲0)			9 (▲0)	0 (▲0)	9 (▲0)
	10			0			10	0	10
物流事業	4 (0)						4 (0)	▲0 (▲0)	4 (0)
	4						4	0	4
その他事業	1 (0)			▲0 (▲0)			1 (0)	0 (0)	1 (0)
	1			0			1	▲0	1
全社経費						▲7 (0)	▲7 (0)	0 (0)	▲7 (0)
						▲7	▲7	0	▲7
仮計	38 (6)	20 (8)	▲9 (▲21)	0 (▲0)	7 (0)	▲7 (0)	50 (▲7)		
	32	12	12	1	7	▲7	57		
連結調整	▲2 (▲2)	▲0 (1)	4 (7)	0 (0)	▲0 (0)	0 (▲0)		0 (7)	
	0	▲2	▲3	▲0	▲1	0		▲6	
連結計	36 (3)	19 (9)	▲5 (▲13)	0 (0)	6 (1)	▲7 (▲0)			51 (0)
	33	10	8	0	5	▲6			50

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。
 ※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。
 ※連結除外会社の影響額 ▲2億円(PESANTAR 他)

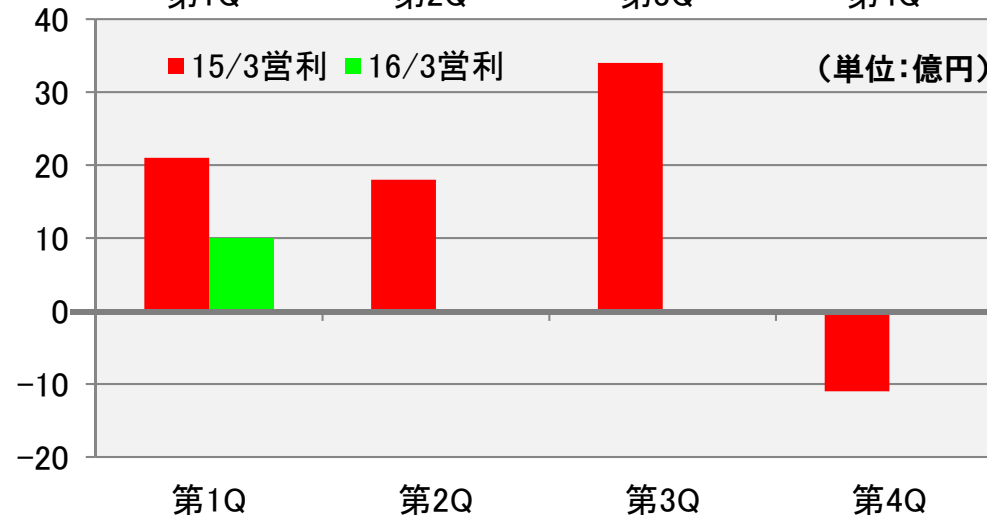
◆南米の鮭鱒養殖事業で販売価格の下落基調の影響大

(単位: 億円)	2016年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期	対前年同期比 増減額/率		2016年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	661	647	14	102.2%	2,726	24.3%
営業利益	10	21	▲ 11	48.7%	60	17.7%
営業利益率	1.6%	3.4%	-	-	2.2%	-

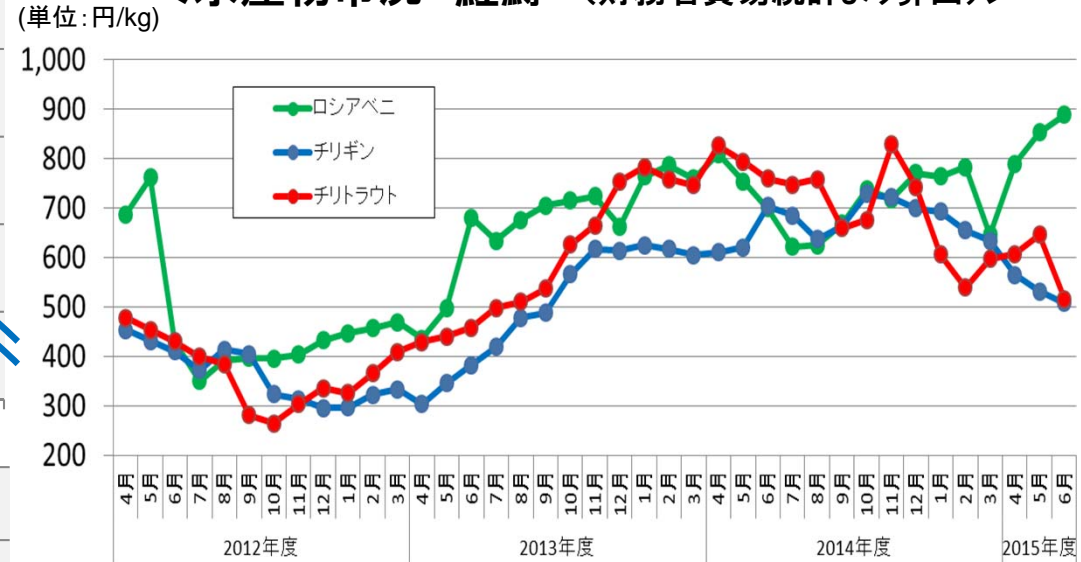
売上高



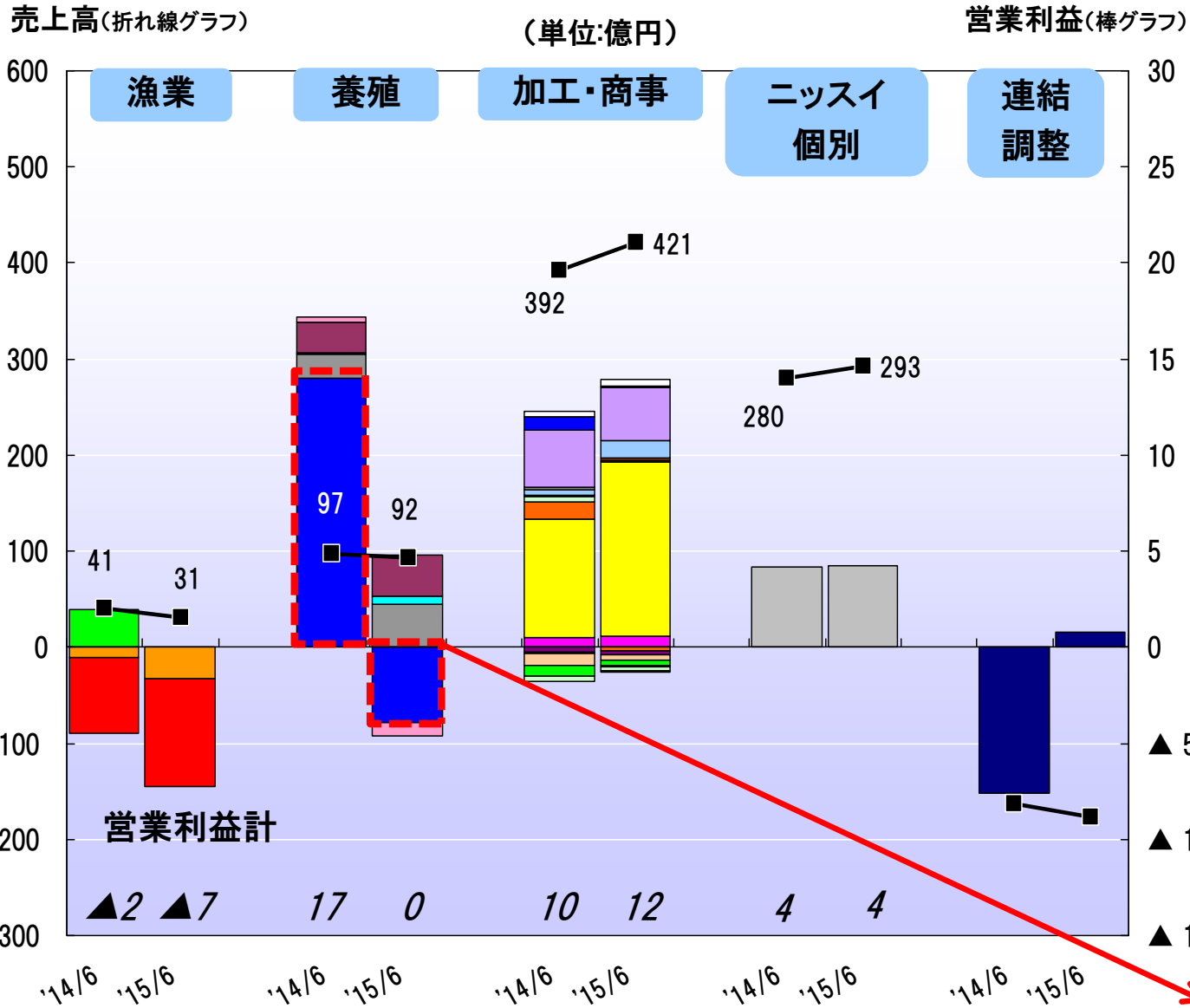
営業利益



＜水産物市況 鮭鱒 (財務省貿易統計より算出)＞



水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)



主な増減要因

【漁業】

- ・日本: 原油安による燃料費の減少、新船建造による償却費の増加

【養殖】

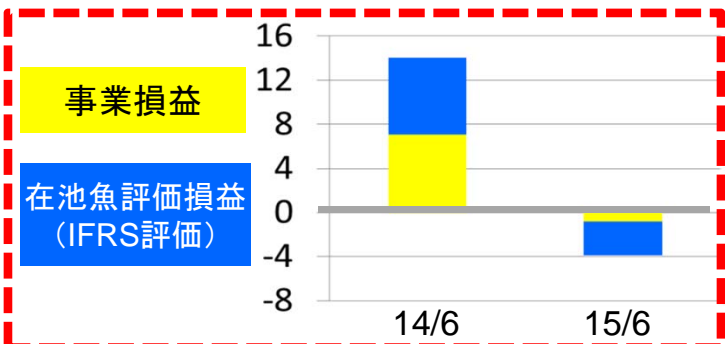
- ・国内養殖事業
 - ぶり: 「若ぶり」販売数量増加
 - まぐろ: 販売数量減少するも、販売価格は堅調に推移
- ・チリの鮭鱒養殖事業
 - 販売価格の下落に加え、飼料高騰もあり、大幅減益

【加工・商事】

- ・アメリカのすけそうだら事業
 - すりみ: 販売数量増加に加え、販売価格も上昇
- ・欧州: ユーロ安の環境のなか、新規顧客獲得に注力

【ニッスイ個別】

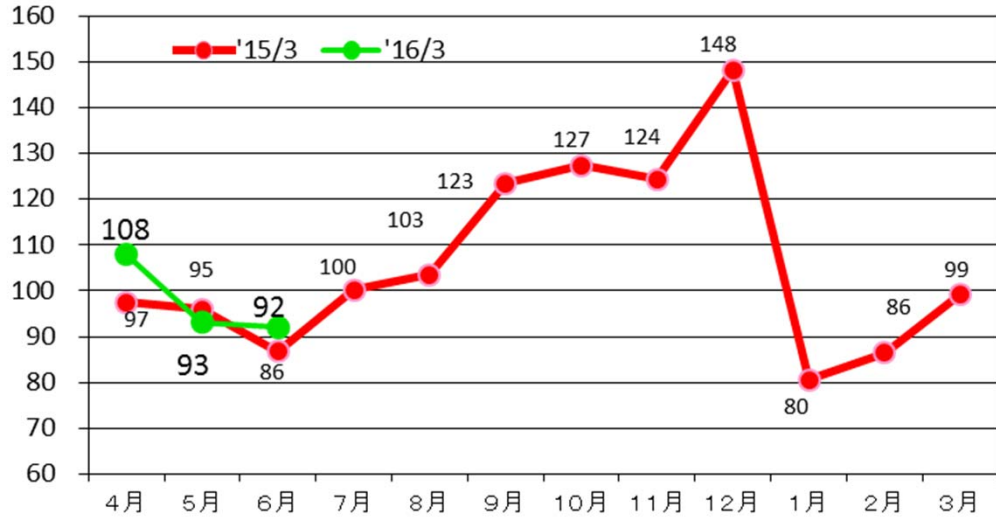
- ・鮭鱒の販売価格は下落基調で推移するも、魚粉の販売価格は高値で推移



※漁業、養殖、加工・商事のグラフは連結子会社の合計を記載
 ※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値
 ※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

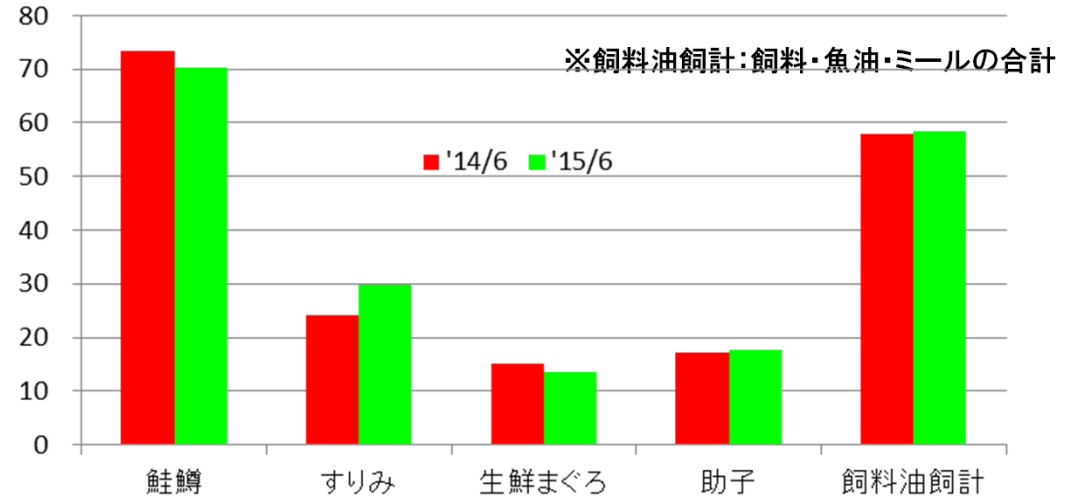
<売上高(月別)>

(単位:億円)



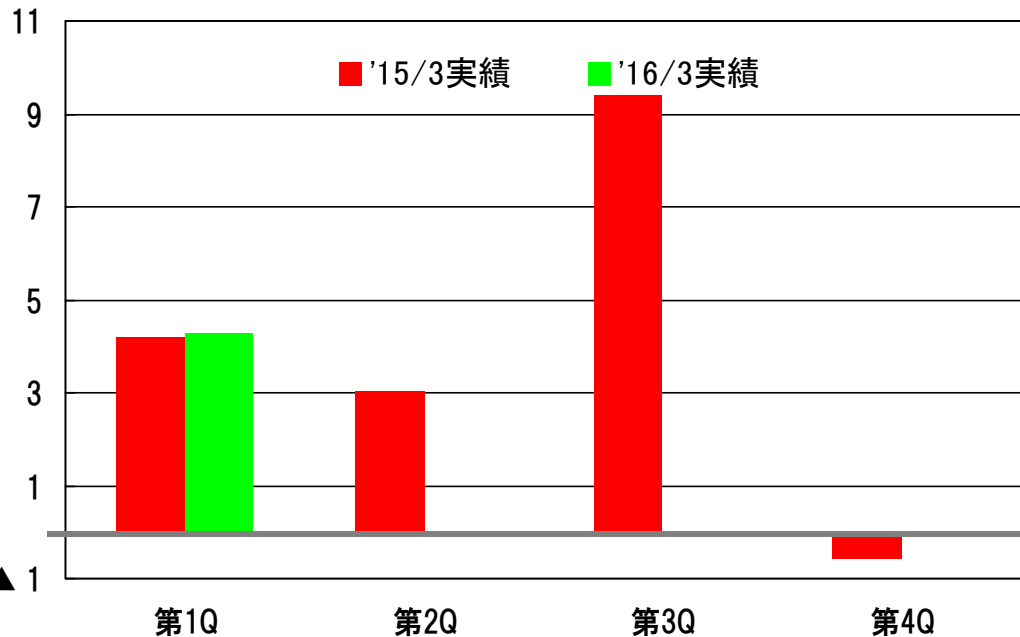
<主要魚種別 売上高(前年同期比)>

(単位:億円)



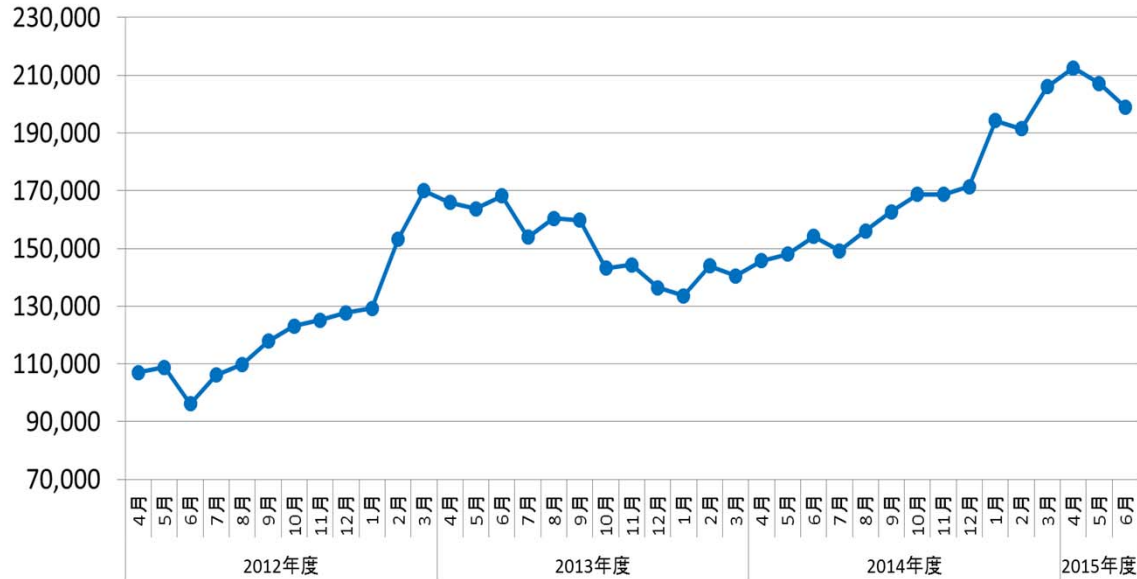
<営業利益(四半期別)>

(単位:億円)



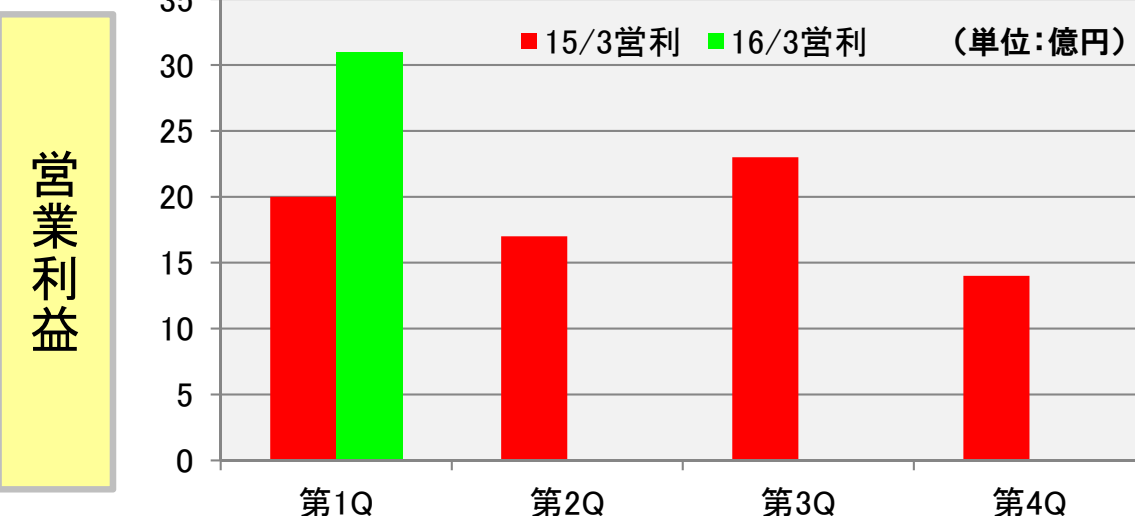
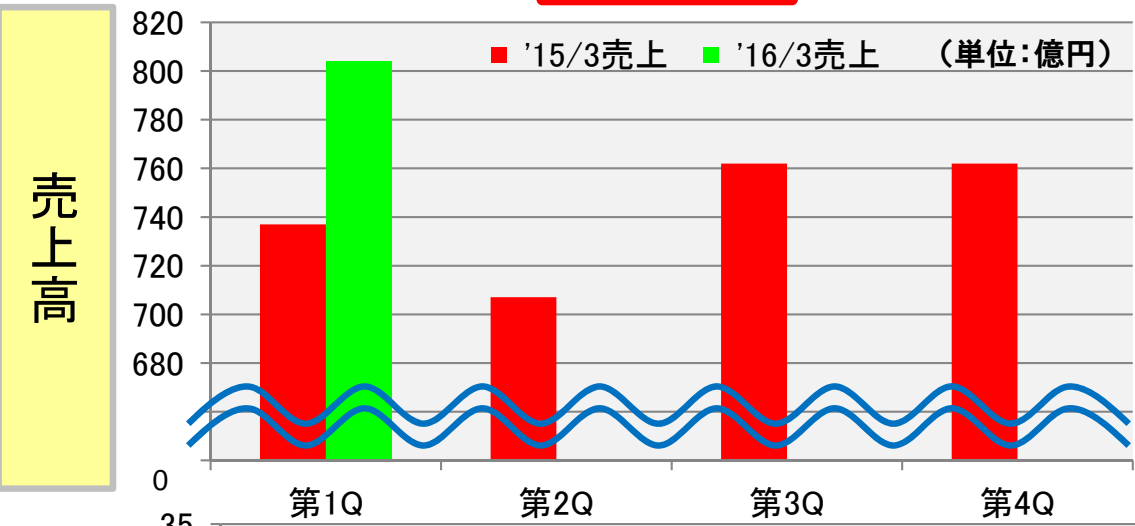
<魚粉価格動向(財務省貿易統計より算出)>

(単位:円/t)

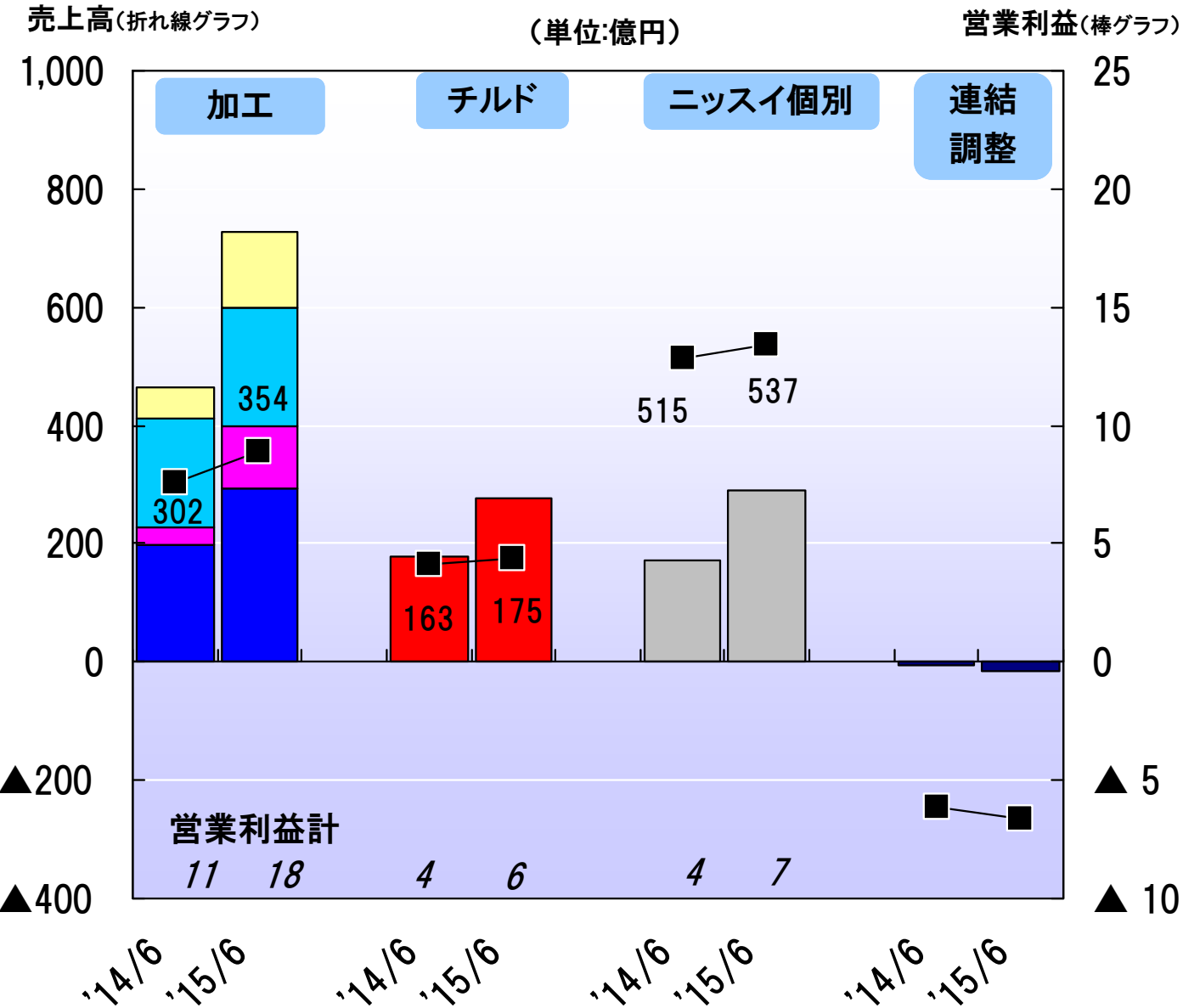


◆日本・北米が好調に推移し、利益は伸長

(単位: 億円)	2016年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期	対前年同期比 増減額/率		2016年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	804	737	66	109.1%	2,995	26.8%
営業利益	31	20	11	157.6%	68	47.0%
営業利益率	4.0%	2.8%	-	-	2.3%	-



食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)



主な増減要因

【加工】

- ・北米
工場集約などにより収支改善
大手レストランチェーン向けの販売が好調
- ・ヨーロッパ
販売数量の増加に加え、生産性も向上

【チルド】

- ・チルド弁当、サラダ等の販売伸長の向上
- ・生産工程の見直しによる生産性の向上

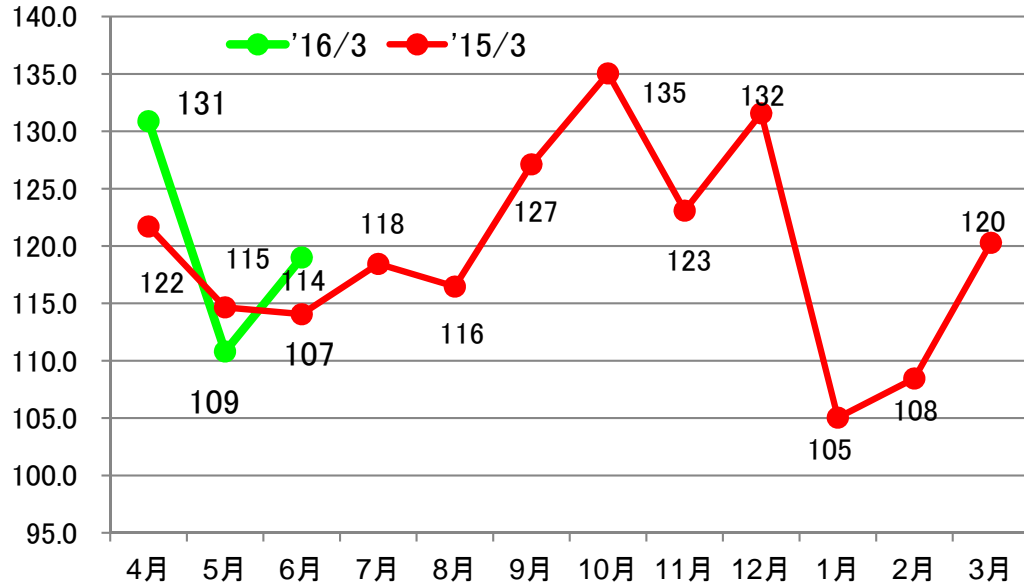
【ニッスイ個別】

- ・前年度好評を得た太ちくわの売場が拡大する等、ねり製品・魚肉ソーセージなどが好調

※加工、チルドのグラフは連結子会社の合計を記載
 ※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値
 ※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

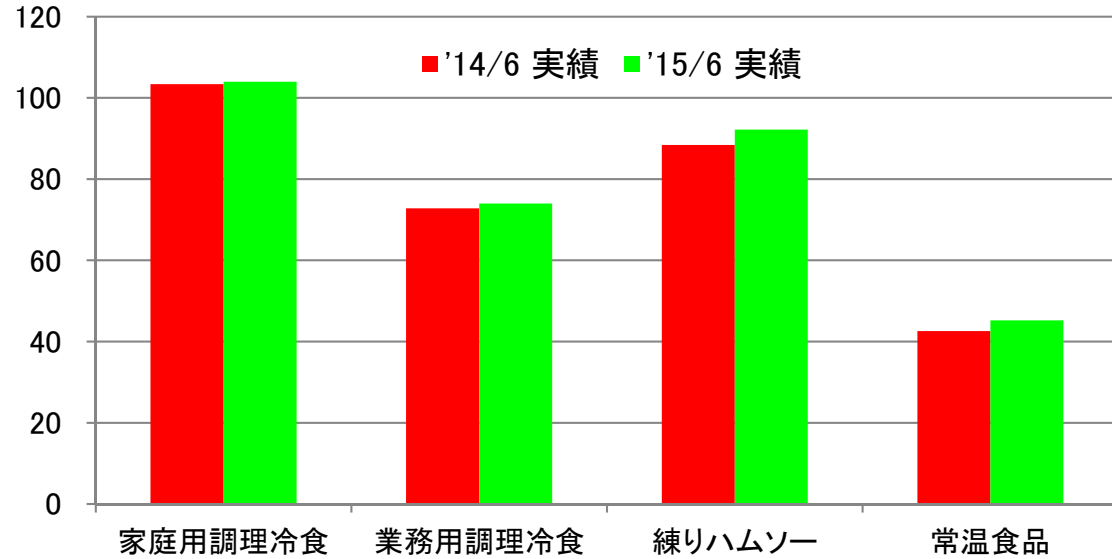
<売上高(月別)>

(単位:億円)



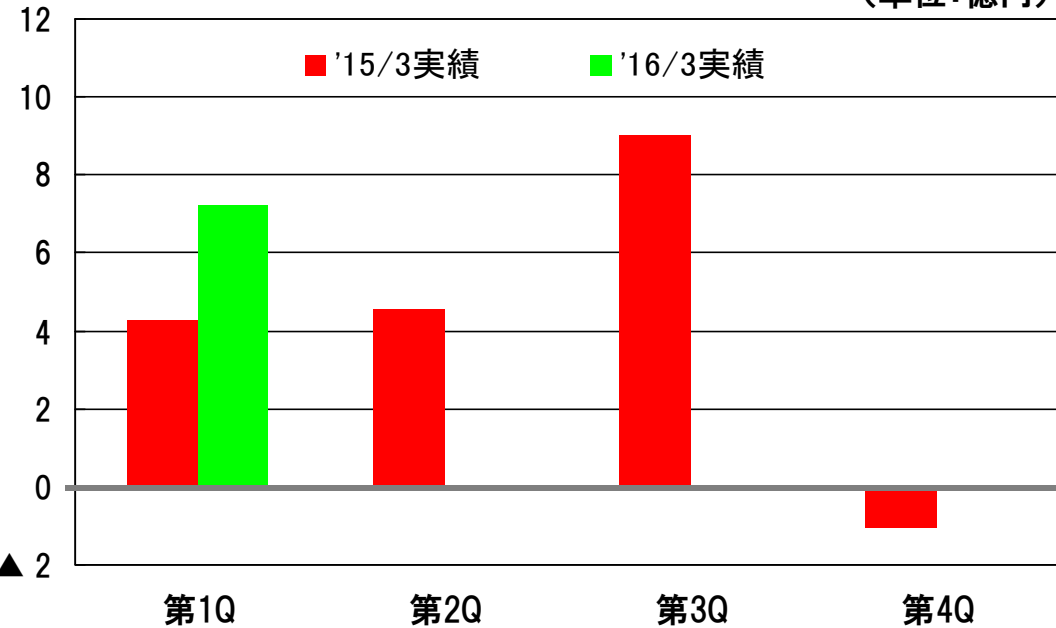
<カテゴリ別 売上高(前年同期比)>

(単位:億円)



<営業利益(四半期別)>

(単位:億円)



<冷凍すりみ輸入価格推移 (財務省貿易統計より算出)>

(単位:円/kg)



◆後発品使用促進策等の影響により、前年に続き苦戦もグループは復調

(単位:億円)	2016年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期	対前年同期比 増減額/率		2016年3月期 見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	58	60	▲2	96.6%	280	20.8%
営業利益	9	10	▲0	91.2%	44	22.5%
営業利益率	17.0%	18.0%	-	-	15.7%	-

主な増減要因

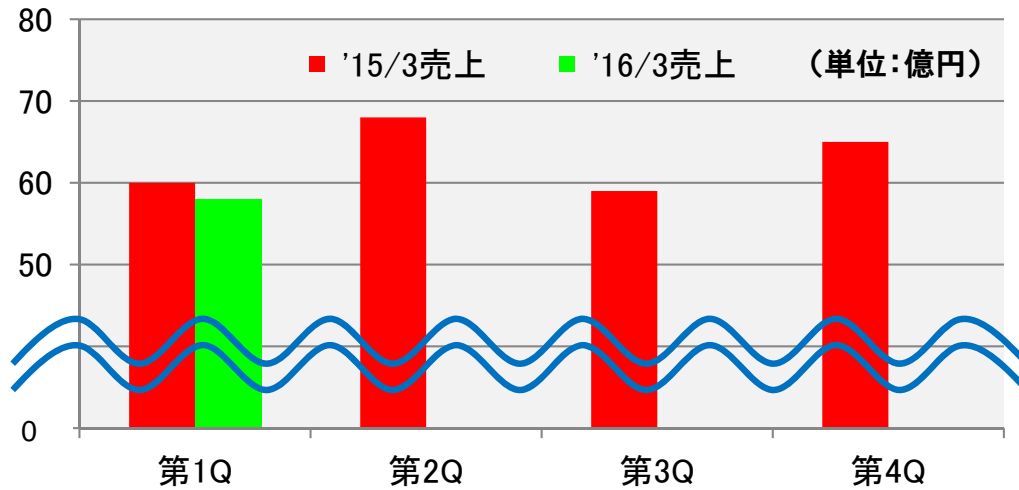
【ニッセイ個別】

- ・医薬原料
後発品使用促進策などによる販売数量の減少

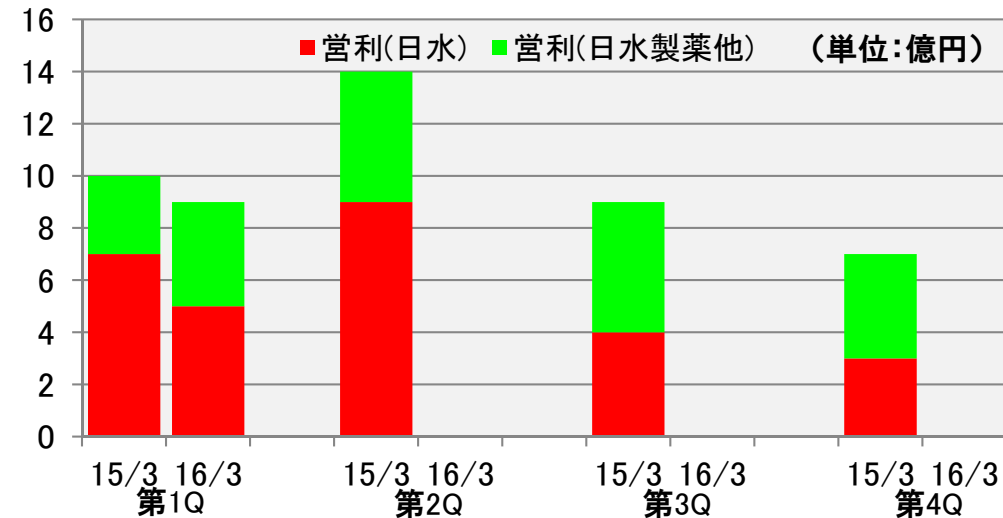
【グループ】

- ・臨床診断薬、産業検査薬などで販売好転

売上高



営業利益



<医薬原料>

前年度より後発品使用促進策の強化等を背景に、先発品の販売が苦戦

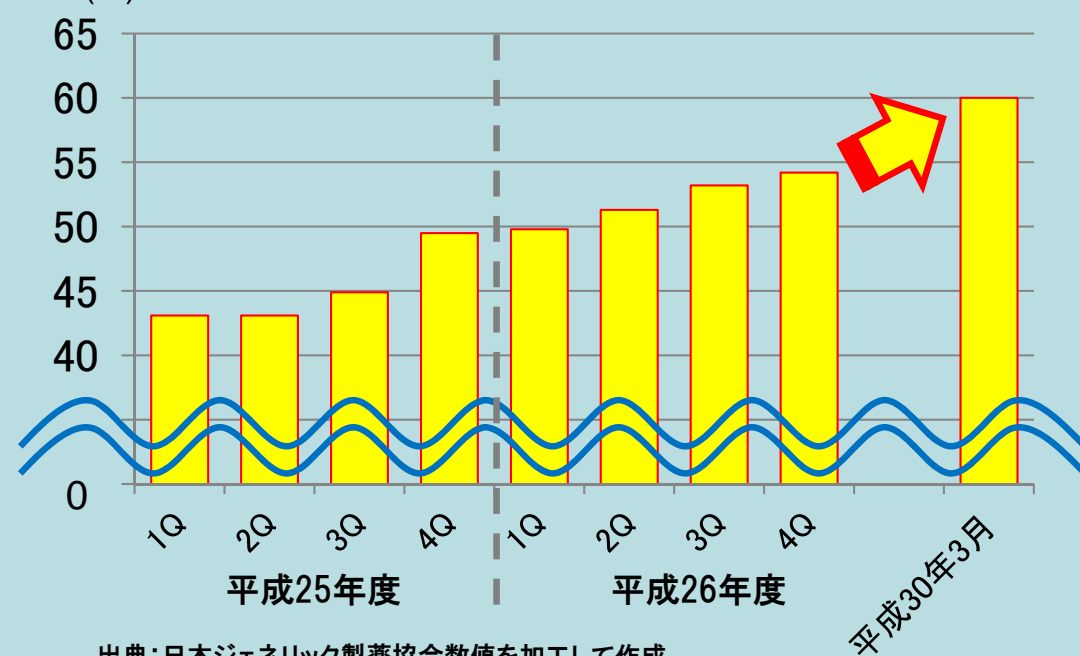
2016年3月期第1四半期決算への影響

⇒ ▲約2億円減益



前年度第1四半期では、後発品の影響は大きくなかったため、前年同期比では販売数量減少

単位(%) 後発品のシェア実績推移及びH30年目標値



出典:日本ジェネリック製薬協会数値を加工して作成

<機能性原料・機能性食品>

・EPA・DHAの原料販売増加:売上高は対前年同期比で約120%

⇒ 約1億円増益

・機能性食品:売上高は対前年同期比で約110%

休眠顧客呼び戻し(DM)の実施、広告宣伝媒体の見直し

⇒ 約1.5億円増益 (販売数量増加による増益額 0.5億円、広告宣伝費減少額 1億円)

<研究開発費>

・将来の成長に向けた研究開発費の投入 ▲約2億円減益

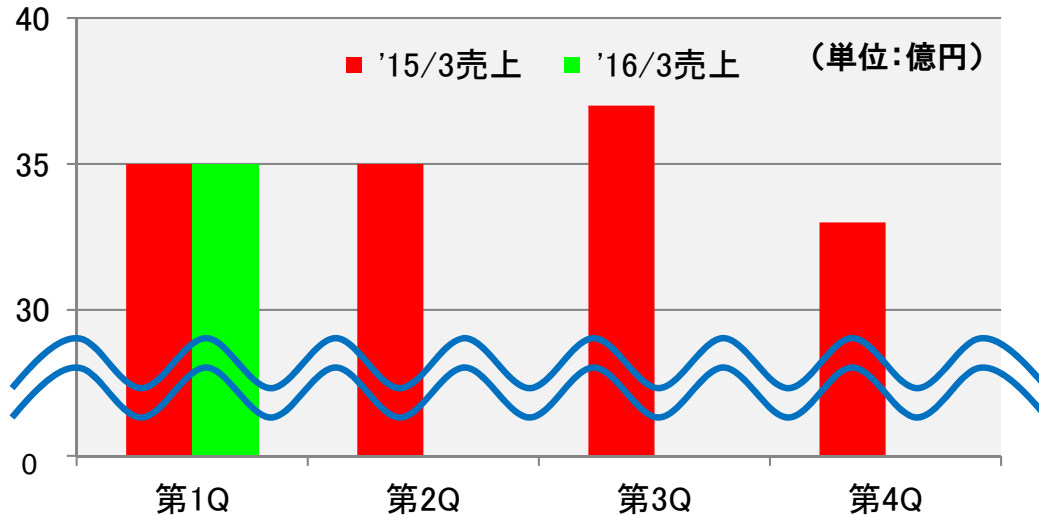
◆前年同期比でほぼ横ばいで推移

(単位:億円)	2016年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期	対前年同期比 増減額/率	2016年3月期 年間見通し(年間)	年間見通しに 対する進捗率
売上高	35	35	▲0 99.5%	152	23.4%
営業利益	4	4	0 103.2%	17	25.6%
営業利益率	12.3%	11.8%	- -	11.2%	-

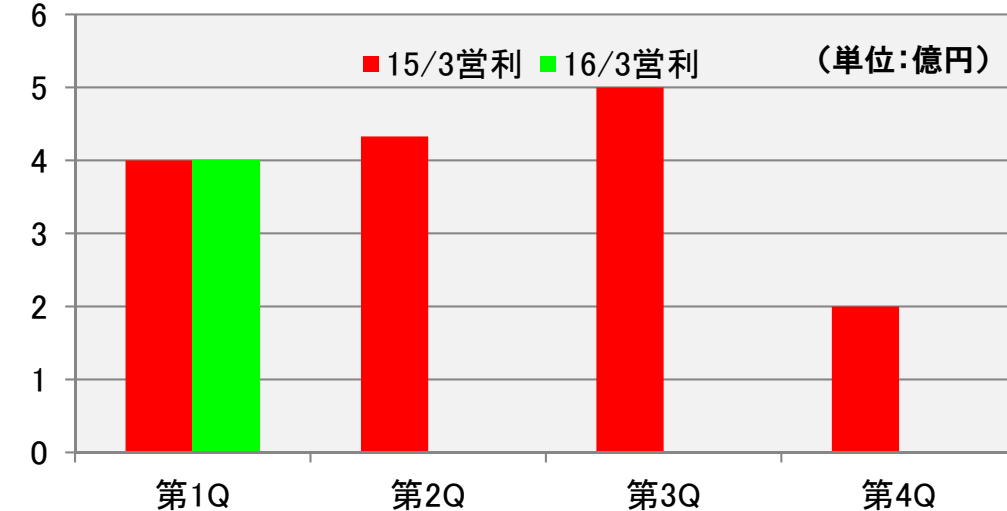
主な増減要因

- ・配送事業: 運送貨物の取扱量減少
- ・冷蔵倉庫事業: 保管料収入増加

売上高



営業利益



日水物流・大阪舞洲物流センター竣工予定図

連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)

	2016年3月期 第1四半期実績	売上高比 (%)	2015年3月期 第1四半期実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	1,606		1,516		89	5.9
売上総利益	343	21.4	325	21.5	18	5.6
販売費・一般管理費	292		274		18	
営業利益	51	3.2	50	3.4	0	0.2
営業外収益	24		17		7	
営業外費用	7		8		▲1	
経常利益	68	4.3	60	4.0	8	14.1
特別利益	1		0		1	
特別損失	3		10		▲7	
税金等調整前四半期純利益	67	4.2	49	3.3	17	34.9
法人税等	15		13		2	
法人税等調整額	9		8		0	
四半期純利益	42		27		15	
非支配株主に帰属する四半期純利益	2		2		0	
親会社株主に帰属する四半期純利益	39	2.5	24	1.6	14	59.6

主な増減要因

【営業外収益・費用】

持分法による
 投資利益 約1億円増加
 助成金収入 約4億円増加 等

主な内訳

【特別利益・損失】

2016年3月期(当期)

- 投資有価証券売却益 約1億円
- 土地減損損失 約2億円

2015年3月期(前期)

- 急激な環境変化による養殖まぐろの斃死による損失 約8億円

連結貸借対照表(前期末比)



流動資産 2,350 (+32)	流動負債 2,094 (▲28)
	固定負債 1,438 (+11)
固定資産 2,246 (▲29)	純資産 1,063 (+20)
総資産 4,596 (+3)	うち自己資本 876 (+23) <i>自己資本比率 19.1%</i>

(単位:億円)

主な増減要因					
資産	+3	流動資産	+32	受取手形及び売掛金 仕掛品	+10 +15
		固定資産	▲29	有形固定資産 無形固定資産 投資その他の資産	▲11 ▲6 ▲11
負債	▲17	流動負債	▲28	支払手形及び買掛金 短期借入金 引当金	+33 ▲49 ▲15
		固定負債	+11	長期借入金 退職給付に係る負債	+12 +5
		純資産	+20	利益剰余金 その他有価証券評価差額金 為替換算調整勘定 退職給付に係る調整累計額 非支配株主持分	+39 +6 ▲19 ▲4 ▲2

自己資本比率 '15/3 18.6% → '15/6 19.1%

()内の数字は前期末比増減

連結キャッシュフロー(前年同期比)



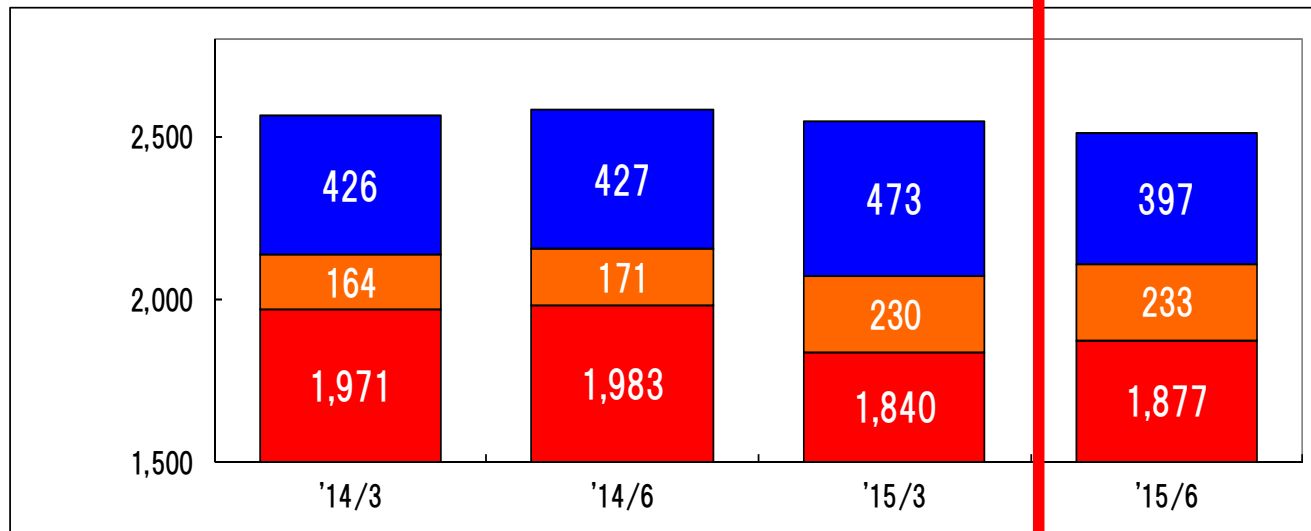
(単位: 億円)

	2016年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期	増減
・税金等調整前四半期純利益	67	49	17
・減価償却費 (のれん償却含む)	40	40	▲ 0
・運転資本	7	▲ 46	53
・法人税等の支払額	▲ 13	▲ 29	15
・その他	▲ 61	▲ 29	▲ 31
営業活動によるCF	39	▲ 14	54
・設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 43	▲ 32	▲ 10
・その他	5	37	▲ 31
投資活動によるCF	▲ 37	4	▲ 42
・短期借入金の増減額	▲ 39	18	▲ 58
・長期借入金の増減額	16	12	4
・その他	▲ 11	▲ 3	▲ 8
財務活動によるCF	▲ 33	28	▲ 62

連結借入金・純金利負担

(単位: 億円)

- 海外関係会社
- 国内関係会社
- ニッスイ個別



前期末
比増減

▲76

+3

+36

借入金合計	2,561	2,580	2,543	2,506	▲36
短期借入金	1,278	1,259	1,399	1,349	▲49
長期借入金	1,282	1,321	1,143	1,156	+12
短期借入金平均利率	0.7%	0.7%	0.6%	0.6%	▲0.1%
長期借入金平均利率	1.4%	1.4%	1.3%	1.3%	+0.0%
純金利負担	16.9	4.4	16.2	3.6	
対営業利益純金利負担率	12%	9%	9%	7%	
支払利息	32.7	7.5	30.3	6.8	
受取利息	4.7	0.9	3.9	0.8	
受取配当金	11.0	2.1	10.1	2.2	
為替レート(US\$1)	@105.39(12月末)	@102.92(3月末)	@120.55(12月末)	@120.17(3月末)	

※為替レート換算による影響額

前期末比 ▲13億円
前年同期末比 +47億円

個別損益計算書(前年同期比)



(単位:億円)

	2016年3月期 第1四半期実績	売上高比 (%)	2015年3月期 第1四半期実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	861		830		31	3.8
売上総利益	170	19.8	165	19.9	4	2.9
販売費・一般管理費	160		157		3	
営業利益	9	1.1	7	1.0	1	19.1
営業外収益	6		5		1	
営業外費用	4		6		▲1	
経常利益	11	1.3	7	0.8	4	61.5
特別利益	1		0		1	
特別損失	2		0		1	
税引前当期純利益	10	1.2	6	0.8	4	64.0
法人税等	1		0		0	
法人税等調整額	0		2		▲1	
当期純利益	8	1.0	3	0.4	5	158.5

主な増減要因

【販売費・一般管理費】

販売費増加	約2億円
管理費増加	約2億円
広告宣伝費減少	約1億円

主な内訳

【特別利益・損失】

2016年3月期(当期)

- 投資有価証券売却益	約1億円
- 減損損失	約2億円

第1四半期決算は連結全体では概ね順調に推移しておりますが、事業毎にバラツキがあることに加え、為替の影響や鮭鱒など魚価の動向が不透明であることなどから、年間の見通しについては変更していません。

(単位:億円)	2016年3月期 第1四半期実績		2016年3月期 年間見通し		進捗率	2015年3月期 年間実績
	売上高	売上高比	売上高	売上高比		
売上高	1,606		6,360		25.3%	6,384
営業利益	51	3.2%	170	2.7%	30.0%	181
経常利益	68	4.3%	185	2.9%	37.3%	213
親会社株主に帰属する四半期純利益	39	2.5%	105	1.7%	37.9%	102

主要在外会社の 為替換算レート	2016年3月期 第1四半期実績 (6月末レート)	2016年3月期 計画レート
米ドル	122.45円	120.00円
ユーロ	137.23円	146.00円
デンマーククローネ	18.39円	20.00円

第2四半期以降の主要なリスクと打ち手

【想定リスク】

- ①水産事業－アラスカの豊漁による鮭鱒市況の変動リスクと、チリ鮭鱒養殖事業への影響
- ②食品事業－円安及びすりみコストアップの影響
- ③ファイン事業－後発品使用促進策の影響継続とリカバリー策の進捗

主要な打ち手

<水産事業>

- ・調達から在庫コントロールまで管理を徹底し、市況悪化局面での利益確保に努める

<食品事業>

- ・すりみを使った冷凍食品など「高収益モデル」の拡大
- ・原料高騰の商品については、生産効率改善により収益性を高める
- ・状況に応じて価格改定についても検討

<ファイン事業>

- ・医薬原料：シェア確保に向けた販売活動の強化、海外販売の展開
- ・機能性表示食品メーカー向けEPA・DHAの原料販売の拡大

「海から、健康EPA life」ブランドについて

目指そう1日☆6つ(900mg)!!

☆	150mg	「**ちくわ」
☆☆☆	450mg	「****」
☆☆☆☆☆☆	900mg以上	「**缶詰」



冷凍食品、加工食品、常温食品のカテゴリーで12アイテムにつき、2015年9月からの販売に向けて機能性表示食品として届出中です。

2015年4月1日に施行された「機能性表示食品制度」を活用し、ニッスイはEPA・DHAを含む加工食品を「海から、健康EPA life(エパライフ)」ブランドの下で投入致します。冷凍食品・常温・日配品・フィッシュソーセージの商品を組み合わせることで、現代の日本人に不足しがちなEPA・DHAの1日の必要量900mgを毎日無理なく摂取していただくことを目指します。

見通しに関する注意事項



本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因の変化により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2015年8月5日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR室広報IR課

03-6206-7044

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

